



しまね学習支援プログラム第3弾「地域魅力化プログラム」を活用したファシリテーター養成講座修了者のみなさんのその後の様子をお伝えします。

「ハッとホッとつながりトーク♪」

～「ハッとホッとなコラボ会」より～

(元:西部県民センター 石央地域振興課)

脇本 美穂 さん



昨年度まで西部県民センターに勤務しておられた脇本さんは、ご自身のファシリテート力を磨こうと西部社会教育研修センターの「ファシリテーター養成講座」を受講されました。今回は、脇本さんが業務のなかで実際にファシリテートされた様子を紹介합니다。

●民泊体験の楽しさを再認識できる会に！

Q:どのような経緯からこのワークショップを企画されましたか？

脇本さん 当課の企画「しまね田舎ツーリズム」には民泊体験（日帰り含む）を提供して下さる実践者の方々がいらっしゃいます。その支援を事務局として行なっているのが「しまね田舎ツーリズム推進協議会」です。

実践者の方々がコロナ禍での民泊受入活動に苦慮されているなか、協議会として体験プログラムの充実やおもてなしのポイントなど、横のつながりを通して気づきや民泊体験の楽しさを再認識するモチベーションUPの場になれば！・・・ということをおねらいとし、企画しました。

今回のワークショップは、邑南町と浜田市の実践者同士で民泊体験をし、その最終日に交流会として「ハッとしたことやホッとしたこと」などについて語り合ってもらいました。ワークを通して即実践につながってもらえれば良いなという思いをもって開催しました。

●準備を入念に！！

Q:どのようなことを意識してファシリテートにあたりましたか？

脇本さん まず、準備を入念にしようと思いました。参加される方のなかには高齢の方もおられるので、こちらの話す内容を「ゆっくりと・ていねいに・わかりやすく」伝えることを心がけ、セリフを文字におこして吟味しました。ワークで用いる文言は、ねらいの達成につながるか課内でも検討しました。

次に、話し合いの際は各グループを見てまわることにおねらいしました。話しておられる方の目を見て、うなずいたり、時には言葉を返したりしました。また、他のグループの内容を紹介したり、グループで出した内容を全体で紹介したりしました。そうすると自然に個々の活動が、全体で1つになっていく雰囲気を感じることができました。

Q:ファシリテートをやってみられていかがでしたか？

脇本さん ファシリテーター養成講座とはまた違った生の実践の場に、柔軟に対応する難しさを感じました。養成講座を受講したからこそ、準備を入念に行い、さらに自分らしくできたように思います。参加者からのアンケートに「次回に繋げて欲しい」「交流会をこれからもして欲しい」というお言葉をいただきました。養成講座でもあったように、「ねらい」を明確にもち、それがワークを通して最後のアンケートの回答や皆さんのお言葉から「伝わった・達成できた」と感じられてうれしかったです！！

●地域住民の主体的な“学び”と“動き”へ！！！！

Q:実践から「学んだこと」について教えてください。

脇本さん 「実際に体験」「直接顔を合わせて」の大切さをあらためて実感しました。実践者の方々は、受け入れる側だけではなく宿泊する側の体験をすることで、新たな気づきがありワークでも積極的に意見を出しておられました。また、会の開催にあたり参加者一人ひとりに直接お会いし、この会の趣旨を伝えてまわりました。その結果、こちらの思いに賛同して下さり、さまざまな面で協力していただきました。本当にみなさんの協力があったからこそこの会を成功させることができたと思っています。

Q:今後についてお聞かせください。

脇本さん この業務をとおして気づいたのは「地域に入るっていいな」ということです。いろいろな人・こと・ものに出会うことで心が豊かになるように思います。ファシリテーター養成講座や実践をとおして学んだことを生かし、これから出会う人とも、その人の思いや魅力が引き出せるような人になりたいです。